身体活動 実施者を増やす 理論モデルを検討

専門分野　スポーツ社会学

担当科目　スポーツプロモーション特論など

超高齢社会を迎えた日本において医療費増大への対応は喫緊の課題となっています。その対策のひとつが中高齢年代層における身体活動実施者の増加による健康増進ではないでしょうか。私は活動実施者増加のための理論モデルを検討しています。具体的には、無作為に抽出した調査対象に質問紙調査を実施し、理論に基づいた分析モデルを設定、その妥当性を検証します。たとえば、運動などの健康行動への無関心者から定期的な実践者になるには段階があるとされています。この段階をトランスセオレティカルモデル（行動変容段階モデル）として表現し、それに基づいて無関心層へのアプローチや定期的な実施者の段階逆戻り防止などを検討していきます。現在は、海外の学会での発表にも注力しています。高齢化の速度が速い日本における研究成果を世界へ発信することは大きな意義があると考えています。

授業では、高齢者だけでなく、あらゆる人を対象にしたスポーツプロモーションを理論と実践との両面から検討します。重視するのは、先行研究の検討から仮設を立て、データを収集し、仮設を検証するという科学的研究手法の徹底です。幅広い領域に応用可能な学問ですので、スポーツクラブの立ち上げや健康活動の実施など各自の目的・志向に沿って実践的な研究を進めてほしいです。

キーワード

■ソーシャルキャピタル（社会関係資本）

健康活動促進には、個人間のつながりと同時に、地域社会に様々な活動をしやすい人間関係が蓄積されていることが重要です。

■スポーツプロモーション

競技から健康づくりまでのスポーツ現象をプロモーションの視点で検討します。

■ダイバーシティ

スポーツ社会学では、競技者から高齢者、子ども、障がいのある方まで多様な人々を対象とします。

■生涯スポーツ社会

個人のライフステージに応じたスポーツへの関わり方（「する」「みる」「ささえる」）を実現できる社会を構想します。

中山 健　教授

略歴

中京大学大学院体育学研究科 体育学専攻博士課程単位取得退学。2008年～2013年3月 富士市スポーツ振興審議会委員（現・スポーツ推進審議会）、2013年5月～現在 高槻市スポーツ推進審議会委員。

近年の研究論文

「高齢者の運動実施に対する自己効力感へ人的支援が与える影響に関する研究；支援内容と働きかけの主体に着目して」スポーツ健康科学研究, 第35巻, 99-110, 2013

「大学生サーフライフセーバーの卒業後の活動意欲：日本ライフセービング協会への会員登録に着目して」生涯スポーツ学研究, Vol.13,No.1,31-39, 2016